

# 虹と雪「100年目のバラード」へ

さっぽろの街が生まれかわる——1972年、第11回オリンピック冬季競技大会「札幌オリンピック」が、ここ真駒内を舞台に開かれました。名曲「虹と雪のバラード」とともに記憶されるこの大会を契機に札幌の街は大きく成長し、42年。街は成熟期を迎えました。ここ真駒内は、その歴史とともにあった地区です。これから、新しい時代にあわせて真駒内は再び生まれかわります。「虹と雪のバラード」の時代とは逆に、札幌の街はゆるやかに縮小し、ゆとりが生みだされます。その時、札幌の人々が楽しく豊かな生活を送るための鍵の一つが、ウィンタースポーツです。年齢も競技レベルも幅広い人々がスポーツを楽しみ、豊かな交流の場となるのが、オリンピックの舞台だったこの真駒内です。2040年にプロジェクトが完成すると、2072年頃にもそう大きく変えずに街を使う事になります。そして、その時。歴史の風格と明るい色彩を併せ持った「虹と雪のバラード」が、この真駒内に響き渡ります。



真駒内のいま——

1972年、冬季オリンピックの開催とともに開発された真駒内。42年の時をへたいま、宅地や公共施設は老朽化し、住民の少子・高齢化も進んでいます。さらに商業施設が少なく、住民が他地区へ買い物に出かけてしまいます。訪れた人にとっても駅は単なる通過点に。さらには、駅利用者そのものの減少も問題となっています。駅周辺の市街地が更新時期を迎えたいま、施設を一新して多世代の住民を呼び込んだり、まちの若返りを図ったり、真駒内へさらに人を呼び込むためのまちづくりをめざします。

## 真駒内の未来への取り組み

### a. 真駒内のアイデンティティを活かすウィンタースポーツのまち

- ・真駒内が、アジア最大規模の、ウィンタースポーツを楽しむ人のための拠点になります。
  - ・真駒内駅前に、通年型アイスリンクを中心に据えた複合施設を配置します。
  - ・スポーツ用品店をはじめとした、多様なウィンタースポーツ関連店舗を多数配置します。
  - ・通年でアイスリンクを営業するためのエネルギーは、自然の力を活用します。
- 夏期は、地下に貯蔵した雪氷冷熱のエネルギーを、冬季には、ヒートポンプを運転し周辺施設の暖房用熱源を開きます。

### b. 若年者の定着と多世代交流の拠点に

- ・子育て世代をターゲットとした環境整備をすすめ、若い世代が暮らしやすいにします。高齢化が進行しつつある真駒内は若返り、さらに活気のあるまちになります。
- ・エリアには子育て世代と高齢者世帯が混在する集合住宅を設置します。豊富なスポーツ施設を活用し、子どもから高齢者まで幅広い世代がウィンタースポーツに共に親しみます。真駒内は多世代の交流が盛んなまちになります。

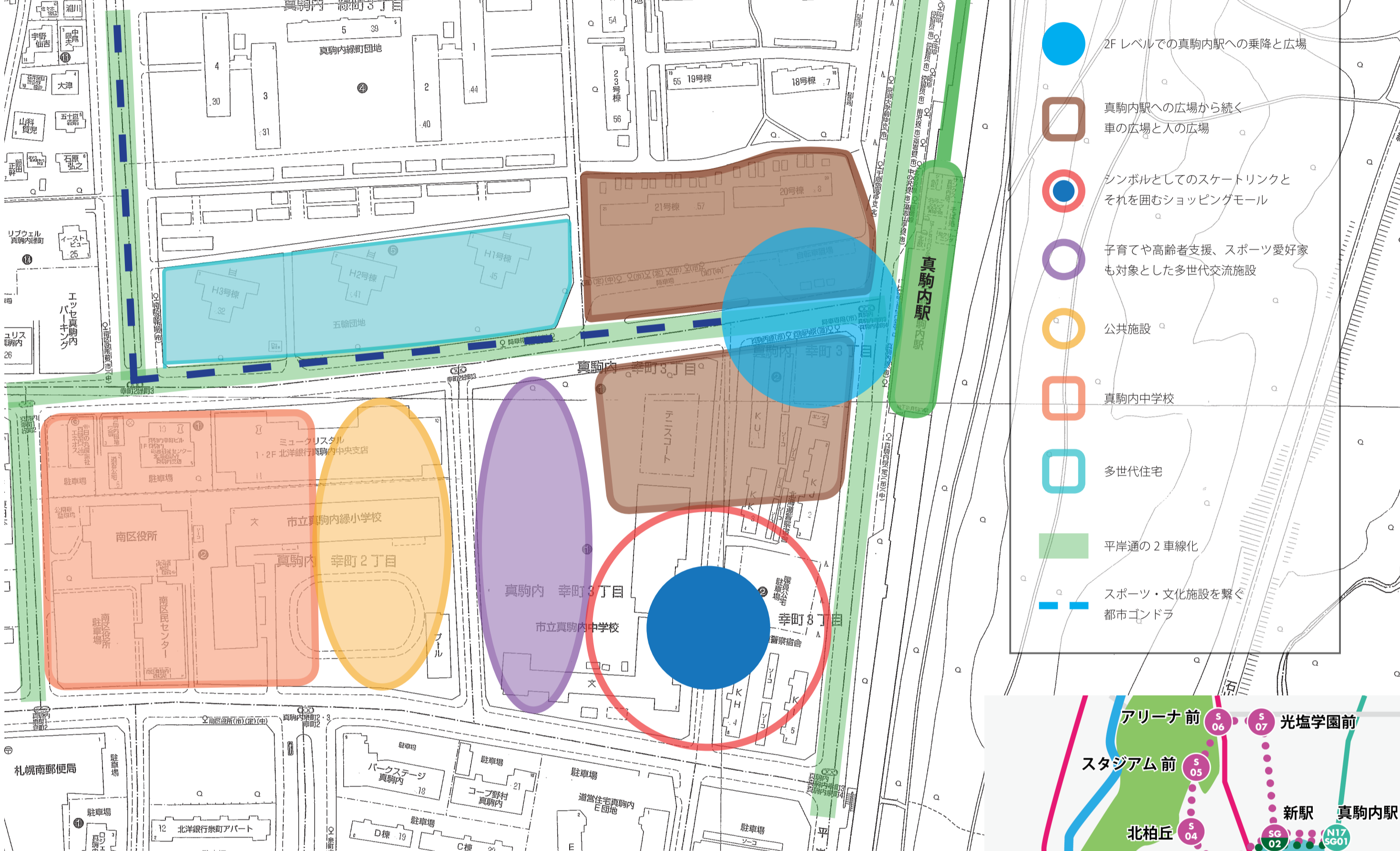
### c. 真駒内を「単なる中継地点」から開放する

- ・真駒内は地下鉄南北線の終点でもあり、南区の交通結節点としての役割を担ってきました。
- ・真駒内を、これまでに単に交通機関を乗り継ぐだけでなく、立ち寄って楽しめるまちにします。

### d. 人と環境にやさしい、回遊しやすい真駒内

- ・「真駒内駅」～「真駒内競技場」～「柏丘」及び「芸術の森」を、都市ロープウェイで結びます。地下鉄真駒内駅で平面的に接続され、スムーズに乗り継ぎができます。
- ・日本で初めて、ロープウェイを都市交通として活用します。
- ・駅からの距離が遠く不便だった真駒内競技場や、急斜面にさえぎられ迂回を余儀なくされていた柏丘地区のアクセスを改善します。
- ・終点の芸術の森へは、森の中を空中散歩をしながら進んでいます。

## MAKOMANAI 2040



## 1 アイスリンクのある多機能都市へ

### 通年利用型アイスリンク

・施設のコアに、通年で利用できるアイスリンクを設置します。例えば仙台市の通年型リンクは、荒川静香選手や羽生結弦選手ら多数のプロスケーターを輩出してきました。通年型リンクを設置することで、冬季スポーツの拠点としての「真駒内」の立ち位置を強化します。

### 充実のスポーツショップを配置、冬のスポーツの聖地に

・リンクの周辺はショッピングセンターとし、スポーツ関係の店舗を重点的に配置します。スポーツ用品を総合的に扱う大型店のみならず、多彩なスポーツブランドの直営店が立ち並びます。イベントスペースも設け、週末毎に著名なアスリートや解説者のトークショーや、特設のマーケットが開かれます。アスリートを目指してトレーニングに励む人はもちろん、レクリエーションとしてのスポーツを楽しむ人も、そうでない人も楽しめるお店です。

### お食事もおスリート仕様

・ショッピングセンターにはレストランとフードコートが併設されます。それも、通常のファストフードやチェーン店のみならず、管理栄養士が常駐してトレーニング中の選手に健康的な食事を提供します。それと同一か、一般向けにリメイクしたメニューは、一般客も味わうことができます。

### あたらしい公共施設

・南区民センターの役割を引き継ぐ施設をビル内に設置します。「あたらしい公共」を担う良質な市民活動のために、貸室やホールだけでなく、開放的な活動スペースを設け、使いやすく、交流を促す設計とします。

### 中学校

・再開発地区の西端、現在の南区役所がある位置に真駒内中学校を移設します。商業施設の喧嘩から多少の距離をおいて閑静な環境にするとともに、明るく開放的で健やかに過ごせる木造建築の校舎とします。

### 多世代住宅

老朽化が進行し、古い規格の間取りが不便だった五輪団地を建て替えリノベーションで再生。子育て世代に使いやすい居屋や、高齢者にやさしいバリアフリー設計の居室を配置します。世代間の交流が自然と生まれる住環境になります。

### 自然の力をとりこむエネルギー利用

・新しい施設は、エネルギー消費効率の高い先進的なシステムを備えます。アイスリンクの地下にはガスコジェネレーションシステムによる熱供給プラントを設置し、既存の清掃工場排熱による熱供給と併せて真駒内地区全体の熱供給を賄います。これにより、住宅や店舗の温水、冷暖房、ロードヒーティング等を完備します。アイスリンクの製氷と冷却はヒートポンプで行い、季節を問わず安定的に利用できるようにします。ヒートポンプは冷却した分の排熱が生じますが、これも熱源として活用します。屋上にはソーラーパネルを設置し、日中の電力源の一部をこれで開きます。蓄電池を設置し、ソーラーパネルとあわせて災害時にも最低限の電力を確保し、避難と復旧作業を支えます。

## 2 真駒内周遊☆都市型ロープウェイ

### 日本初！都市交通としてのロープウェイの利点

・ロープウェイ（ゴンドラ）といえば、藻岩山のような展望台や、スキー場のゴンドラを想起するかもしれませんが。日本では都市交通としての導入例はありませんが、外国での導入事例があり、国内でも業界団体の日本索道工業会が「エアートラム」として提案しています。このロープウェイがあれば、これまで駅からバスへの乗り換えや徒歩で移動していた真駒内公園・競技場へスムーズに移動できます。また、斜面上にある柏丘地区への交通も改善されます。

### 経済的な中規模輸送システム

- ・輸送力は、距離やゴンドラの大きさによりますが、路線バスよりも大きくすることが可能です。また、モノレールや路面電車より小規模な設備投資で実現できます。
- ・さらに、ロープウェイは占有空間を小さく抑えられるシステムです。路面電車のような路上の軌道も、モノレールのような高架も、もちろん銀色のシェルターも必要ありません。用地買収も、道路を長期間塞く工事も不要です。

### 待たずに乗れる

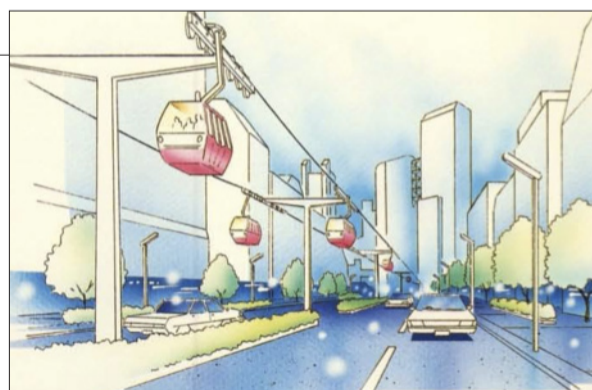
・ロープウェイで結ぶゴンドラの出発間隔は12秒。バスや地下鉄と違い、すぐに乗れます。その分、気軽な移動手段として活用できます。

### 急勾配を乗り越える

・ロープウェイは、急勾配の上下に通した乗り物であり、最大で線路勾配40°での設置が可能です。急斜面に阻まれ、大きく迂回するが階段を徒歩で上り下りする必要のあった柏丘地区に途中駅を設置し、アクセスを改善します。

### 森の中を進む空中散歩

・芸術の森へは、その道中の景色を空中から楽しむことができます。また、地下鉄からすぐに気軽に乗り継ぎができ、便利になります。



イメージ図：日本索道工業会資料より引用

|           | 地下鉄・鉄道             | モノレール              | 路面電車               | BRT                | バス               | ロープウェイ                  |
|-----------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------|-------------------------|
| 輸送人員      | 800人/本<br>12000人/h | 800人/本<br>12000人/h | 70人/本<br>1400人/h   | 70人/本<br>1400人/h   | 70人/本<br>1400人/h | △～○<br>12人/本<br>3600人/h |
| 速度        | 70km/h             | 60km/h             | ▲道路併用<br>30～40km/h | △道路併用<br>40～60km/h | △道路<br>40～50km/h | ▲空中<br>22km/h           |
| 10km 所要時間 | ○20分               | ○20分               | △30～70分            | ○20分               | ○20分             | △30分                    |
| 出発間隔      | ○4～10分             | ○3～10分             | ○3～10分             | ○～△10分～            | ○～△5分～           | ○12秒                    |
| 建設コスト     | x                  | x                  | △                  | ○                  | ○                | ○                       |
| 維持コスト     | x                  | x                  | △                  | △                  | ○                | ○                       |

## まちづくりの段階的プロセス

### Phase1

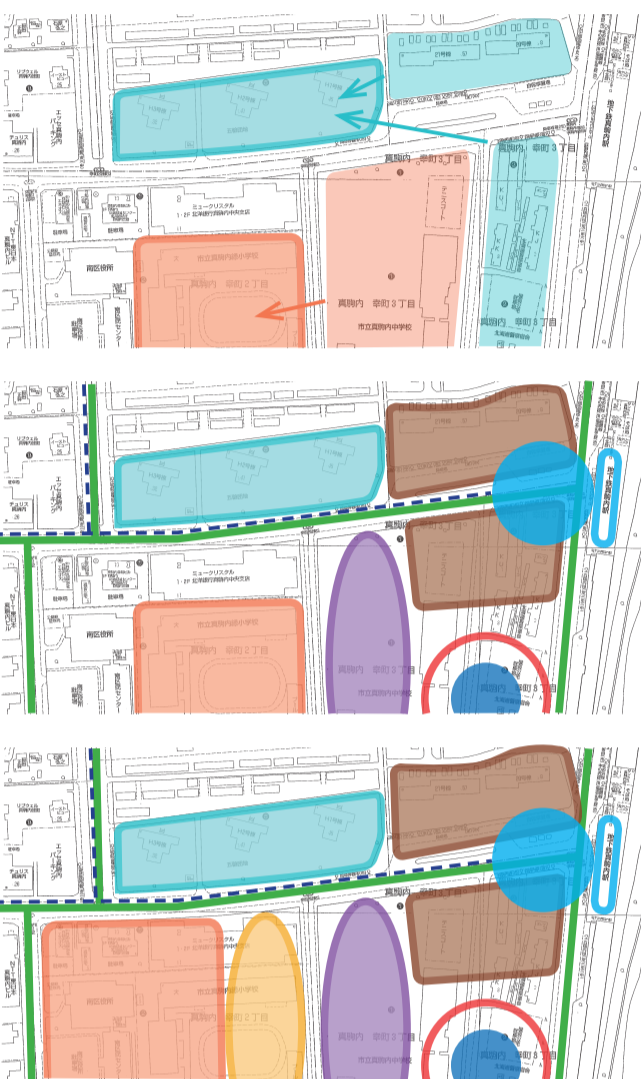
アイスリンク・他世代交流施設・公共施設の開発の為、初めに多世代住宅棟を建設し、開発区域内の居住者の方々に住宅を確保します。市立真駒内中学校は、市立真駒内緑小学校にその機能を移転させます。

### Phase2

住宅や中学校の移転によって空き地となった真駒内駅周辺に、アイスリンクとそれを囲むショッピングモールを建設し、現ショッピングモールへの移転先を提供します。他、多世代交流施設、車と人の広場、2階レベルでの真駒内駅への乗降と広場の建設を行います。2階レベルでの真駒内駅への乗降と広場の建設に合わせて、平岸通りの二車線化都市ゴンドラの建設も行います。

### Phase3

アイスリンクと併設したショッピングモールの建設により、今あるショッピングモールをそちらに移転させ、空き地となった旧ショッピングモールを解体します。並行して、公共施設の解体と移転、中学校の部分的な移転と整備を行います。



## 3 乗り換えラクラク♪真駒内駅

終点駅の利点を最大限活かして頭端式ホームとします。2階レベルで地下鉄とバス、ロープウェイを階を移動することなく乗り換えができます。隣接する商業施設ともフラットに接続し、人の流れを生みだします。地上の平岸通は2車線とし、その通過交通と、人とバスを分離します。

